

体験グローバル 「エフピコ株式会社」講演のアンケート結果

2016年9月13日7時間目に4年生を対象に、エフピコ株式会社より松尾和則さんを講師として本校にお招きし講演をしていただきました。

松尾和則さんからは「循環型環境に向けた企業としての取り組み」をテーマに、他社が取り組もうとしなかったトレーの回収・リサイクルの仕組みを確立したこと、そのサイクルを浸透させたり、新たな商品を生み出したりするために消費者と何度も対話を重ねてきたことなどをお話ししていただきました。また、循環型社会に向けてトレーのリサイクルシステムを確立する「社会貢献」に限らず、障害者雇用も積極的に行っているという「社会貢献」も講演の中で紹介してくだる中で、これからの企業が社会で果たすべき姿をいくつも示してくださいました。

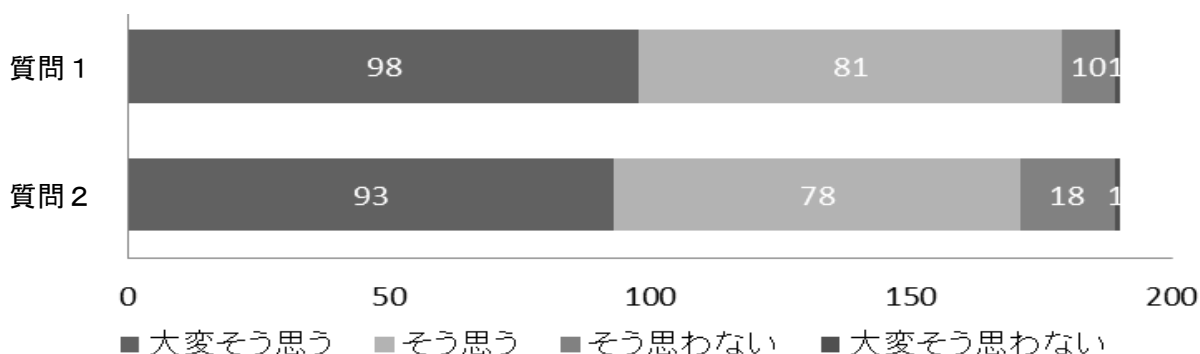


講演後の生徒のアンケートをまとめると以下のようになりました。

質問項目

1. 今日の講演は興味・関心をもって聞くことができましたか。
2. 今日の講演は新しい考え方や視点が学べるものでしたか。

集計結果
*総数192



自由記述 今回の講演から学んだこと、考えたことを具体的に記述してください。

- エフピコさんは「現場 100 回」の主義を持っていることが分かった。「現場から需要を発見する。」これを絶え間なく続けることが利益の原点だということが分かった。また、問題を見つけたから、もしくは予測したらモタモタせず即座に対応する迅速な行動が上手に操業できている要因のひとつなのだろうと思った。誰よりもいち早く、汎用品という利益必須の製品を始めたこと、「スピーチ」がよかったのだと思った。
- 時代のニーズにあわせて、製品をつくるということの背景に、現場までちゃんと行ってその人の声を聞いて開発したと知り、すごいたくさんの努力があるからこそ、より良いモノがつかれるということを改めて感じました。他にも、何度も改善を繰り返していることを知り、今私たちが心地良く食品を買うことができるのは、エフピコで働いている人が考えてくれているからだと思うと、すごく感謝しなきゃなと思いました。また、トレーからトレーへ、ボトルからボトルへリサイクルされていることも恥ずかしながら初めて知りました。トレーやボトルが回収されているのは知っていたけれど、それがまた同じものになっているということには驚きでした。私の家では、トレーやボトルは洗ったらそのまま捨てていたので、今からは積極的にリサイクルBOXへ持っていくようにしたいです。
- お客さんや、お店の人など書いての立場の話を聞き、理解し、求められているものをつくって販売していったからこそ、トレー市場において大きなシェアを誇れる会社になれたのだと思いました。ほかの会社に負けない技術や、しっかりとした考えをもっている会社なので、これからもずっと社会から必要とされる会社であり続けるだろうと思いました。人の話に耳を傾ける「聞き手上手」であるということは企業の人間に限らず、普段の生活の中でも大切なことだと思うので実践していきたい。

○今回の講演でトレーを回収してエコトレーを生成するプロセスについて学ぶことができました。ですが、今回のメインテーマである「環境、エコトレー」だけではなくエフピコさんが世論やニーズに対応するために行ってきた画期的な戦略、商品、そして企業努力についてよくわかりました。カールトレーをきっかけとして他社を一気に抜き去り、業界の中でのトップランナーとなるまでの斬新な戦略、そして「顧客との対話」をすることによって顧客が本当に必要としている新商品の製造、そして厳しい環境、状況下でも新たなイノベーションを起こしていく画期的なスタンス、そしてそれを成功させていく企業努力から非常に多くのことを学びました。



○こんなにも大きな会社になるまでの苦労がとても伝わりました。どれだけ頑張っても小さな効果しか得られないような状況でもそれをやり続けることが大切だと知りました。また、「日本は遅れている」というのは印象に残った。別のところで聞いた話だが、アメリカなどではすでにドローンを使った色々な事業などが考えられているが、日本は色々な問題点ばかりを挙げるから一向に進まないというのを聞きました。「良い程度の思いやり」が今の日本には必要だと思います。

○今までエフピコさんは何をされている会社なのか全く知りませんでした。今回の講演を通して、エフピコさんはすごく私たちと身近なものを作られていました。エフピコさんがここまで成長してきたのは常に他社との競争意識があったからだと思います。また自分たちの技術にすごく自信があるのが伝わってきました。他社からの圧力に耐えて、より良い商品をより良い効率で生産し、販売しようと思ふに思ふを重ねてきた従業員の方々のすごさも感じられました。その中でも「現場を訪れる」ということが特に重要だと思いました。現場に行くことでそれぞれのニーズを知ることができ、それに応じることが出来るようになります。私もスーパーなどの食品売り場に行ったとき、このトレーがかわいい・オシャレなどと感じたことが数多くあります。トレーによって、食品の鮮度や明度が上がってさらに「買いたい」という欲求が高まりました。そのようなトレーを福山の企業が作っていると知り驚きました。まだまだエフピコさんの技術は上がっていき世界から認められるようになるのではないのでしょうか。また、エフピコさんのために私たちができることはできる限りやりたいと思います。特にトレー回収の時にきちんと分別していきたいと思います。「プラスチックだからいいや」という適当な気持ちで、パンの留め具などを決して入れないようにし、間違った分別または分別をしようとしてない人に、分別し、トレー回収の大切さを教えてあげたいと思います。

○今回は、循環型社会について学びました。エフピコさんのリサイクルの仕組みは昔からずっと行われていたようですが、始めは回収率が低かったと聞き驚きました。根気よく回収を続けた結果が、今の素晴らしい技術につながっているんだと思いました。私は夏にアジア少年少女国際交流事業に参加し、エフピコさんを見学させていただきましたが、アジアの子供たちも驚いていて、日本の技術のすごさを改めて実感しました。一番すごいと思ったのは、PET ポリなどでチップを分けているところです。そのような色々な技術を駆使して、日本のリサイクル技術は今後も発展していくんだらうと思いました。



○まず、「消費者（利用者）のニーズを的確に把握することが重要だ」ということがわかりました。不買運動などのつらい出来事も過去にはあったようですが、そのような困難があったからこそ、新しい技術を生み出すきっかけとなり、それが会社の成長につながっていることを知りました。逆境は捉え方次第だと強く感じました。また、障害者を雇用することが社会貢献でもあり、企業にとっても高効率につながった話には驚かされました。自らの行動次第で周囲の流れ（雰囲気）を変えることができることが分かり、自分もいい方へ流れを変えられるような行動ができるようになりたいと思いました。